

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970900161		
法人名	医療法人忠友会		
事業所名	グループホーム武田の里		
所在地	山梨県韮崎市神山町北宮地8		
自己評価作成日	平成26年11月23日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人として、診療所・デイケア・訪問介護、看護・居宅支援事業所などを併設しています。自然に囲まれた環境のため住宅が少なく、地域住民との交流は少ないですが、多機能な事業所としての特性を活かし、日々のケアにあたっています。利用者様の「その人らしさ」を大切に、安心してその人らしく生活できるような場所を目指し、職員が一体となって取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成26年12月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、釜無川の右岸に位置し周囲に田畑が広がる新興住宅地に位置している。敷地内には法人が運営する診療所・デイケア・訪問介護・看護・居宅支援事業所などがあり、事業所間の連携の元、利用者が安心して生活できる体制が整っている。敷地の一角には畑があり季節の野菜作りがされている。建物内の床や内装には木が多く使われ、広々として温かさに満ちている。職員は一人一人の利用者に「その人らしく」と温かな心で向かい合い 利用者の明るく穏やかな表情が、日々の生活の落ち着きを感じさせてくれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム武田の里

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に運営理念を掲示すると共にミーティング等を通じて、管理者・職員の間で理念を共有し、利用者がその人らしく暮らせるように支援している。	事業所内に運営理念を掲示すると共にミーティング等を通じて、管理者・職員の間で理念を共有し、利用者がその人らしく暮らせるように支援している。	理念は玄関内の壁に貼られている。日々の申し送り時や、2フロア合同のミーティングで、「画一的支援になっていないか？」等を職員一同で振り返り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の福祉祭りに参加したり、図書館などの地域資源を活用している。また学生や障害者施設からの職場体験などの受け入れもおこなっている。	地域の福祉祭りに参加したり、図書館などの地域資源を活用している。また学生や障害者施設からの職場体験などの受け入れもおこなっている。	近所は新興住宅地で自治会もなく住民も仕事に出ている為、住民との交流が持てない。市の祭りに参加したり、障害者施設からの職場体験を受け入れている。近隣の田んぼの人が、事業所の畑の荒れ具合を心配して手伝ってくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市でおこなっている認知症ネットワークや、認知症キャラバンメイトの取り組みに協力し、管理者が地域住民や中学生向けに認知症講座などをおこなっている。	市でおこなっている認知症ネットワークや、認知症キャラバンメイトの取り組みに協力し、管理者が地域住民や中学生向けに認知症講座などをおこなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	市の介護保険課、地域包括支援センター、民生委員の方などに出席していただき活動を報告している。また、毎回事例などを挙げて検討会を開き、外部からの意見を聞くようにしている。	市の介護保険課、地域包括支援センター、民生委員の方などに出席していただき活動を報告している。また、毎回事例などを挙げて検討会を開き、外部からの意見を聞くようにしている。	2か月に1回行っている。民生委員3名は輪番制で1名が出席してくれる。外部評価の結果や家族アンケート、困難事例等の報告をして意見を聞き、内部研修に生かして支援に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修などを通じて市とは密接なコミュニケーションを取っている。困っている方について、市からの相談をきっかけに入居していただくケースも多い。	研修などを通じて市とは密接なコミュニケーションを取っている。困っている方について、市からの相談をきっかけに入居していただくケースも多い。	運営推進会議や研修を通し、市とは密接な協力関係を築いている。市より困難事例の紹介や相談を受け、事業所で受け入れるケースも多い。居室が空いている時はショートを受け入れる事もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯のために玄関の施錠はしているが、それ以外の時間は常に開放している。身体拘束もできるだけしないように、ケアしている。	夜間は防犯のために玄関の施錠はしているが、それ以外の時間は常に開放している。身体拘束もできるだけしないように、ケアしている。	玄関は夜間のみ施錠している。利用者同志のトラブルや緊急時は制する言葉が出る時もあり、とっさに出た折は冷静になってからミーティングで話し合い、スピーチロックにならないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者・職員共に虐待がないように注意を払っている。入居者以外に関しても疑わしい場合については、地域包括支援センターなどに相談するようにしている。	管理者・職員共に虐待がないように注意を払っている。入居者以外に関しても疑わしい場合については、地域包括支援センターなどに相談するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している入居者もいるため、スムーズに利用できるようにお手伝いしている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している入居者もいるため、スムーズに利用できるようにお手伝いしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭で契約内容について説明し、納得していただいたうえで契約を結んでいただいている。不安や疑問点がないか、こちらから尋ねるようにしている。	口頭で契約内容について説明し、納得していただいたうえで契約を結んでいただいている。不安や疑問点がないか、こちらから尋ねるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族とは日々の面談にて意見を求めているほか、直接言いつらいことに関しては、無記名で投書できるようにしている。また、併設事業所の事務所でもお話をうかがっている。	利用者・家族とは日々の面談にて意見を求めているほか、直接言いつらいことに関しては、無記名で投書できるようにしている。また、併設事業所の事務所でもお話をうかがっている。	投書箱を設置してあるが意見は入らない。家族の面会時には出し易い雰囲気作りに努め、意見や要望を聞いている。併設のデイサービスに意見を言ってくれる人もある。出た意見は支援に反映し、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどにおいて意見や提案を出してもらうようにしている。簡単な事柄については、日々の業務の中で直接聞きながらその場で対応している。	ミーティングなどにおいて意見や提案を出してもらうようにしている。簡単な事柄については、日々の業務の中で直接聞きながらその場で対応している。	日々のミーティングや毎月の全体ミーティングの折、意見や要望を出している。意見は出し易い職場で物品購入、行事、食事、職員の待遇に関する事など多くの意見が出る。必要な事、可能な事は迅速に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現況においては規定上の昇給が困難な面もあるが、有給休暇などは毎月取れるような体制を作っている。また研修は業務扱いで気軽に行けるように配慮している。	現況においては規定上の昇給が困難な面もあるが、有給休暇などは毎月取れるような体制を作っている。また研修は業務扱いで気軽に行けるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修については回覧などで周知し、参加者を募っている。外部での研修に参加しづらい職員のために、内部研修などの機会も設けている。	外部の研修については回覧などで周知し、参加者を募っている。外部での研修に参加しづらい職員のために、内部研修などの機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の活動や県のグループホーム協会、またケアマネ同士の集まりにも参加している。さまざまな視点が持てるように、同業者との交流は多く持つようにしている。	市の活動や県のグループホーム協会、またケアマネ同士の集まりにも参加している。さまざまな視点が持てるように、同業者との交流は多く持つようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の困りごとや不安な点、要望などについて必ず確認している。入居してからも在宅時と同じように、その人らしい暮らしが継続できるように、支援している。	入居前にご本人の困りごとや不安な点、要望などについて必ず確認している。入居してからも在宅時と同じように、その人らしい暮らしが継続できるように、支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に関しても上記対応をおこなっている。ご本人、ご家族との意見に違いがある場合にも、お互いに納得ができる形をとれるように支援している。	ご家族に関しても上記対応をおこなっている。ご本人、ご家族との意見に違いがある場合にも、お互いに納得ができる形をとれるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人にとって必要な支援については必ず確認をおこなっており、グループホーム以外のサービスが必要な方には、外部のサービスも活用している。	その人にとって必要な支援については必ず確認をおこなっており、グループホーム以外のサービスが必要な方には、外部のサービスも活用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	元気な方には掃除や食事関連のことなど、家事の手伝いなどをしていただき、役割を持っていただいている。動作が難しい方でも何かその人らしいことが見つけられるよう、配慮している。	元気な方には掃除や食事関連のことなど、家事の手伝いなどをしていただき、役割を持っていただいている。動作が難しい方でも何かその人らしいことが見つけられるよう、配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診などにはできるだけご家族にも同行していただいたり、無理のない範囲で外食や、家に帰る機会なども作っていただき、ご本人との関係が途切れないように支援している。	受診などにはできるだけご家族にも同行していただいたり、無理のない範囲で外食や、家に帰る機会なども作っていただき、ご本人との関係が途切れないように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に通っていたデイサービスに遊びに行く機会を作ったり、なじみの美容院へ行けるようにするなど、その人ごとに対応している。	入居前に通っていたデイサービスに遊びに行く機会を作ったり、なじみの美容院へ行けるようにするなど、その人ごとに対応している。	それぞれの利用者に以前の生活が継続できるよう支援している。馴染みの理髪店や美容院に行ったり、かかりつけ医の継続や入居前のデイサービスに遊びに行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方と過ごせるように座席を配置したり、一緒に散歩に出かけられるようにしている。	仲の良い方と過ごせるように座席を配置したり、一緒に散歩に出かけられるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも時間があれば面会に行ったり、お見舞いなどに行っている。必要があればいつでも相談してくださいと、ご家族にも伝えている。	サービス終了後でも時間があれば面会に行ったり、お見舞いなどに行っている。必要があればいつでも相談してくださいと、ご家族にも伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとゆっくり会話できる時間を作りながら、意向の把握に努めている。意志の確認が困難な方は、ご家族に元気な頃の姿を聞いたりしながら、本人にとって何が良いかを検討している。	一人ひとりとゆっくり会話できる時間を作りながら、意向の把握に努めている。意志の確認が困難な方は、ご家族に元気な頃の姿を聞いたりしながら、本人にとって何が良いかを検討している。	どんな風に暮らしたいかを基本に利用者それぞれの意向を確認している。意向の確認が出来ない利用者は家族より情報を得たり、生活歴から確認している。夜勤帯は利用者との関わりが深まり情報を得る事が多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にできるだけご自宅を訪問し、入居してからでもこれまでの生活習慣などが大きく変わることのないように支援している。施設の決まりを強制しないようにしている。	入居前にできるだけご自宅を訪問し、入居してからでもこれまでの生活習慣などが大きく変わることのないように支援している。施設の決まりを強制しないようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態は日々変わっていくため、その日、その時に合わせた柔軟な対応を心がけている。	利用者の状態は日々変わっていくため、その日、その時に合わせた柔軟な対応を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて医師や理学療法士からの助言もいただきながら、本人にとって有効な介護計画を作るようにしている。介護計画以外にも、最適なケアについては日々検討している。	必要に応じて医師や理学療法士からの助言もいただきながら、本人にとって有効な介護計画を作るようにしている。介護計画以外にも、最適なケアについては日々検討している。	入居時の担当者会議で初期の介護計画を立てる。状態に応じて医師やリハビリスタッフ、看護師の意見を聞く。家族の意見も聞きながら3か月に1回見直す。状態の変化時は、その都度計画の修正をする。日々の職員意見も反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別の記録は出勤時に必ず確認することとしている。またそれ以外にも特別なことについては、別途連絡事項として閲覧できるようにしている。	日々の個別の記録は出勤時に必ず確認することとしている。またそれ以外にも特別なことについては、別途連絡事項として閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師による訪問診療や、併設診療所のリハビリなども含めて、サービスがグループホーム内だけで終わるのではなく、柔軟な支援ができるように心がけている。	医師による訪問診療や、併設診療所のリハビリなども含めて、サービスがグループホーム内だけで終わるのではなく、柔軟な支援ができるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自立支援事業を活用していただいたり、読書が好きな方には地域の図書館を利用してもらうなどしながら、豊かな暮らしができるように支援している。	地域の自立支援事業を活用していただいたり、読書が好きな方には地域の図書館を利用してもらうなどしながら、豊かな暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設診療所はあるが、主治医の変更を強制するのではなく、これまでのかかりつけ医にも通っていただき、入居中の様子などをケアマネより医師に随時伝えている。	併設診療所はあるが、主治医の変更を強制するのではなく、これまでのかかりつけ医にも通っていただき、入居中の様子などをケアマネより医師に随時伝えている。	家族対応で入居前のかかりつけ医継続の利用者が半数で、残りは併設のクリニックとなっている。受診時は日頃の状態や情報を手紙や電話で報告している。家族対応が出来ない折は職員が同行支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を持った職員もいるため、専門的に体調管理できるように努めている。緊急時には併設診療所の医師や看護師にも対応していただいている。	看護師の資格を持った職員もいるため、専門的に体調管理できるように努めている。緊急時には併設診療所の医師や看護師にも対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は何度か訪ねさせていただき、病院の相談員や看護師から、正確な情報をいただくようにしている。病院関係者とは研修などで一緒にすることも多く、関係は良好である。	入院中は何度か訪ねさせていただき、病院の相談員や看護師から、正確な情報をいただくようにしている。病院関係者とは研修などで一緒にすることも多く、関係は良好である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りへの対応の指針について入居時に全員に説明しているほか、実際にその時がきた場合には再度、医師も交えて終末期に向けたケアの方針を確認し合うようにしている。	重度化、看取りへの対応の指針について入居時に全員に説明しているほか、実際にその時がきた場合には再度、医師も交えて終末期に向けたケアの方針を確認し合うようにしている。	入居時、重度化や看取りについて家族の方針を確認している。元気な利用者は当初方針が定まっていなかった事もあり、状態の変化時に医師を交えて家族に終末期に向けた方針を確認している。法人内の医療連携・協力が得られ、事業所での看取りに至ったことはある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などを通じて応急法について学んでいる。判断が難しい際には併設診療所の医師、看護師からも助言、ご指導をいただき、正しい判断が行えるように努めている。	研修などを通じて応急法について学んでいる。判断が難しい際には併設診療所の医師、看護師からも助言、ご指導をいただき、正しい判断が行えるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をおこなっている。近隣住民にもいざという時のお願いはしてあるが、実際の協力までは難しい面もある。	定期的に防災訓練をおこなっている。近隣住民にもいざという時のお願いはしてあるが、実際の協力までは難しい面もある。	年2回 訓練をしている。夜間想定訓練では多くの問題が浮かんできた。地震想定訓練では机の下に潜る訓練を理解出来ない利用者が多くいた。連絡網訓練では連絡の順番や連絡方法が今後の課題となった。	住民の協力も期待できない地域であるため、地域消防団との協力協定を運営推進会議で相談する。停電を想定し代替えの火器、防寒対策などを検討する。避難訓練、連絡網訓練も内容を検討し、今後も継続するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせて自尊心を傷つけない声かけを行うように心がけている。	一人ひとりに合わせて自尊心を傷つけない声かけを行うように心がけている。	尊厳を傷つけない言葉かけや接し方を心掛けている。呼び方は姓を基本としているが、同姓の利用者は名前「さん」を付けている。書類管理や守秘義務も理解徹底されている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的に決めるのではなく、本人に尋ねるようにしている。判断が難しい方であっても、本人の気持ちになって考えるようにしている。	一方的に決めるのではなく、本人に尋ねるようにしている。判断が難しい方であっても、本人の気持ちになって考えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり生活習慣が違うのは当たり前のことなので、自由に生活を送れるように支援している。	一人ひとり生活習慣が違うのは当たり前のことなので、自由に生活を送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服をご自身で選んでいただいたり、欲しい物があればご家族にも協力をお願いしながら、その人らしい姿で過ごせるように支援している。	着たい服をご自身で選んでいただいたり、欲しい物があればご家族にも協力をお願いしながら、その人らしい姿で過ごせるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい物を尋ねて用意させていたたり、出来る方には配膳や片づけ、食器洗いなどを手伝っていただいている。	利用者に食べたい物を尋ねて用意させていたたり、出来る方には配膳や片づけ、食器洗いなどを手伝っていただいている。	月～土迄昼食はデイサービスで作り、他は利用者の希望を聞いて事業所で作っている。食器洗いやテーブル拭きは、元気な利用者が一緒に作業してくれる。介助の必要な利用者のいる状況だが職員も会話しながら一緒に食事を摂っている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日に食べた物、あるいは摂取した水分量を確認し、栄養不足や脱水が起きないように注意している。普通の食事が食べられない方には、きざみやミキサー食を用意している。	その日に食べた物、あるいは摂取した水分量を確認し、栄養不足や脱水が起きないように注意している。普通の食事が食べられない方には、きざみやミキサー食を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや入れ歯の洗浄を促している。自分で出来ない方については、介助させていただいている。	歯磨きや入れ歯の洗浄を促している。自分で出来ない方については、介助させていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導をおこなっているほか、一時的に身体低下などでおむつを使用していた方であっても、回復したら外している。夜間間に合わない方には、お部屋にポータブルを設置している。	誘導をおこなっているほか、一時的に身体低下などでおむつを使用していた方であっても、回復したら外している。夜間間に合わない方には、お部屋にポータブルを設置している。	日中は出来る限り、トイレでの排泄を基本とし、チェック表の他、利用者の動きや表情で声掛けや誘導をする。排泄が自立している利用者もいる。トイレが間に合わない利用者は、夜間のみ居室でポータブルトイレを使用している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼るのではなく、牛乳、ヨーグルトや、食物繊維の多い食品をすすめるなど、さまざまにアプローチしている。	下剤だけに頼るのではなく、牛乳、ヨーグルトや、食物繊維の多い食品をすすめるなど、さまざまにアプローチしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	急変する可能性を考えて、職員が一人の時間帯はどうしても避けていただいているが、それ以外ではできるだけ希望に添えるように心がけている。	急変する可能性を考えて、職員が一人の時間帯はどうしても避けていただいているが、それ以外ではできるだけ希望に添えるように心がけている。	週2回、日中を基本としているが、平日は毎日入浴が出来る。事業所の考えを押し付けるのではなく、利用者の意思で入り、入浴の自立している人は最初か最後に入る事が多い。夏場シャワーを毎日使う利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(すみれ)	ユニット名(さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間などは決めていないため、入居前の習慣と同じように過ごせるように、自由にしていただいている。	起床、就寝時間などは決めていないため、入居前の習慣と同じように過ごせるように、自由にしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり手渡し、あるいは介助をして飲み忘れがないようにしている。薬の内容については必ず確認し、症状の変化への対応も含めて、迅速に医師に相談できるような体制を作っている。	一人ひとり手渡し、あるいは介助をして飲み忘れがないようにしている。薬の内容については必ず確認し、症状の変化への対応も含めて、迅速に医師に相談できるような体制を作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	画一的なレクを強制するのではなく、一人ひとりが違った楽しみを持っているほうが当たり前と考え、入居前にしていたこと、好きなことを継続できるように支援している。	画一的なレクを強制するのではなく、一人ひとりが違った楽しみを持っているほうが当たり前と考え、入居前にしていたこと、好きなことを継続できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、外でお茶を飲む機会などを作っている。また希望によってはご家族の協力も得ながら、本人の行きたい場所へ行けるように支援している。	散歩やドライブ、外でお茶を飲む機会などを作っている。また希望によってはご家族の協力も得ながら、本人の行きたい場所へ行けるように支援している。	季節や天候をみながら出来る限り、散歩やドライブに出掛けている。ウッドデッキでお茶会をしたり、家族と定期受診後ドライブして外食や買い物をしてくる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失の可能性も考え、普段は現金は事務所で預らせていただいているが、買い物やしたいときにはそこからお渡しして、好きな物を買うように対応している。	紛失の可能性も考え、普段は現金は事務所で預らせていただいているが、買い物やしたいときにはそこからお渡しして、好きな物を買うように対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかけたい方には使っていただいている。携帯電話を使う方もいる。字が書ける方には年賀状や手紙などを書けるように、お手伝いもさせていただいている。	電話がかけたい方には使っていただいている。携帯電話を使う方もいる。字が書ける方には年賀状や手紙などを書けるように、お手伝いもさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花などを飾ったりしながら、居心地の良い空間が作れるように心がけている。飾り付けなどを一緒に手伝っていただくこともある。	季節の花などを飾ったりしながら、居心地の良い空間が作れるように心がけている。飾り付けなどを一緒に手伝っていただくこともある。	リビングで過ごす時間が長い為、利用者同志の仲の良さ、テレビを楽しめるよう、難聴、視力低下等を考慮して席の位置を決め、居心地良く過ごせるよう支援している。1.2階とも同じ作りで、さりげなく花や飾り付けがされ、落ち着いた過ごせる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	何かを無理に強制することはないため、独りになることも、仲の良い方と過ごすことも本人の自由にしていただいている。	何かを無理に強制することはないため、独りになることも、仲の良い方と過ごすことも本人の自由にしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	とくに持ち込む家具類の制限をしていないため、家で使っていた家具やテレビ、好きな本などを持ってきていただいている。	とくに持ち込む家具類の制限をしていないため、家で使っていた家具やテレビ、好きな本などを持ってきていただいている。	エアコン、クローゼット、ベットが設置されている。ベットは利用者の状態や希望で木製、タタミ、ギャッチベットが選べる。持ち込み制限は無くテレビ等がある居室も、クローゼットが大きい為か、全体にやや閑散とした感じがする。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー環境で安全に過ごせるようにしている。また、手すりなどを活用していただきながら、できるだけご自身で動けるようにと支援している。	バリアフリー環境で安全に過ごせるようにしている。また、手すりなどを活用していただきながら、できるだけご自身で動けるようにと支援している。		